

# 太陽光&蓄電池の独立電源 世界最先端の「ノンフロン自然冷媒」に脚光

エネルギー・環境ベンチャーのグローバル・リンクは太陽光発電と蓄電池を組み合わせ、分散型発電の普及を目指すビジネスを独自に展開中だ。また同社は画期的な「ノンフロン自然冷媒」を開発し、空調機器の冷媒分野に新風を吹かしている。

文/南野彰

## トップエンジニアの社長 GISOLARが大ヒット

グローバル・リンクは東日本大震災の1ヶ月後に設立した新鋭企業だ。「今まで積み重ねたエネルギー・環境技術開発の成果を世の中に還元して、日本に安心の未来を届ける一助になりたい、という思いで起業しました」と語るのは、同社の代表取締役社長・富樫浩司氏。同氏は日立造船の環境プラント事業や長谷工の技術研究所で蓄電システムなどの特許を取得するなど、最先端環境開発研究のエンジニアとして活躍してきた経歴を持つ。そこの活躍を知る馴染みの広告代理店社長に「そろそろ起業したらどうだ」と背中を押され、支援を受けての起業だった。

設立直後から矢継ぎ早に商品販売し、業績は2年目から倍々ゲームのように伸びている。同社はまず、小型太陽光発電と蓄電システムを組み合わせたGISOLARを商品化。2011年7月に発売した商品は低価格ながら高品質という評価を受けて、飛ぶように売れた。商品は住宅、オフィス向けなど規模に応じて太陽光サイズを400Wから1・2kWまでの4種類を販売している。また、富樫社長は震災復興の一助として同商品を11年9月に仙台市内の各病院や宮城県石巻市の被災者に寄贈している。

## FIT開始後はメガソーラーへ 廃校を利用した町おこしも

同社は12年7月から開始した再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）の追い風に乗り、「成功。上場大手企業から遊休地活用向けに産業用メガソーラーの企画・設計保守をトータルに提案・受託する事業を展開し、実績を上げていった。」

そしてユニークなのが、2014年から開始した茨城県大子町でのプロジェクト。廃校を活用した、太陽光発電と農業を軸にした町おこしの取り組みだ。

「廃校になった中学校の校舎や運動場などを町から安く借りて、ソーラーシェアリングや子供向けの自然体験教室を実施しています。太陽光発電だけでは町おこしの効果は限られてしまうので、打ち合わせを重ねて、地元の強みである自然を最大限生かした事業としました。」

ソーラーシェアリングとして太陽電池パネルの下で、葉物野菜の水耕栽培やシイタケを栽培。さらにサツマイモなど地元特産の野菜を生産するという。子供向けの自然体験教室は数日間の泊まり込みで、自然体験を学びつつ英語を使うなどして国際感覚も養う。太陽光発電と農業を軸に事業を広げることで発電所の保守・点検人員などをはじめとし約50人の雇用が生まれるという。

町と協力し  
廃校利用の  
プロジェクトも!



地方の町おこしにも貢献するユニークな事業を打ち出せるのも同社の強みの一つである。

## GIPOWERを開発 革命的な節電効果を発揮

太陽光発電や蓄電システムなどエネルギー技術を得意とする同社だが、環境技術にも長けている。地球温暖化に役立つ画期的な新製品を開発し、今年2月には新製品ノンフロン自然冷媒ガス「GIPOWER」(実用新案取得)が量産体制に入った。

現在、政府はオゾン層の破壊や地球温暖化を招くフロンを取り締まりを強化している。業務用エアコンなどの冷媒として使用されているフロン類の取り扱いを規制するフロン回収・破壊法を改正し、15年4月にフロン類使用合理化・管理適正化法として名称を変えて規制を強める。近年ではオゾン破壊効果は小さいが温室効果係数の高い代替フロンも問題視されている。

その点、GIPOWERはフロンや代替フロンを使わず自然冷媒の一つであるCO2を用いた極めて環境特性に優れた冷媒だ。オゾン破壊係数はゼロで温室効果係数も1という数値を誇る。代替フロンR410aとの比較実験では、年間の空調電力消費量を約半分に削減することが判明した。



クリーンパワー 阿見町発電所 (茨城県) 496kW

クリーンパワー 大洗町発電所 (茨城県) 207kW

システム設計から稼働後の保証・メンテナンスまで産業用太陽光発電所をトータルで手掛けており、現在順調に稼働中。さらに茨城県でクリーンパワー大子町黒沢中学校跡発電所(1MW)や福島県のクリーンパワー猪苗代発電所(3MW)などのメガソーラー案件も多数進行中だ。



グローバル・リンク株式会社  
代表取締役社長  
富樫浩司氏



グローバル・リンク株式会社  
本社：東京都千代田区有楽町1-12-1  
新有楽町ビル8階  
☎03-6269-9660 globallink.co.jp